

芝川小だより

10月 第6号

さいたま市立芝川小学校
令和7年9月30日
TEL 048(644)7544



こころを育てる秋じかん

朝夕の風に秋の気配を感じるようになりました。校庭の木々も少しずつ色づき始め、子どもたちとともに季節の移ろいを味わう毎日です。2学期が始まって1か月が過ぎ、子どもたちは新しい学びや生活にも少しずつ慣れ、落ち着いて過ごせるようになってきました。

先日、児童会による「芝川まつり」が行われました。代表委員を中心に企画・運営されたこの行事では、1年生から6年生までの混合グループで、各クラスが工夫を凝らして作ったクイズラリーに挑戦しました。「芝川小に、鈴木先生は何人いるでしょう?」「2学期最初の給食は何だったでしょう?」など、みんなで知恵を出し合わないと解けないクイズや、芝川小ならではのユニークな問題が並びました。異学年が自然と協力し合い、芝川小への愛着がさらに深まるようなクイズばかりでした。高学年の児童が低学年を優しくリードする姿もあちこちで見られ、異学年交流の温かさと、子どもたちの成長を感じるひとときとなりました。

さて、今日9月30日は「明日(あす)も進むいのちの日」です。これは、さいたま市教育委員会が、悲しい事故で亡くなった桐田明日香さん(当時6年生)の命日である9月30日を、AEDの普及と学校の安全管理体制の充実に向けた取組を行う日として制定したものです。市立学校ではこの日に、AEDの設置場所確認や一斉点検が行われ、児童生徒への心肺蘇生法などの救命教育も推進されています。芝川小では、朝会等でAEDの場所を確認し、5・6年生が12月に心肺蘇生法を学ぶ授業を行います。人が倒れたとき、その場にいる人が何ができるかを考え、行動する力を育てるとともに、いじめや自殺の問題も含めて命の大切さについて学びます。昨年、さいたま市内でこの学びを生かし、倒れた人を助けた中学生がいました。素晴らしいことです。校庭で倒れた明日香さんが、御家族にとって何よりも大切な人だったように、目の前で倒れた人は、誰かにとってかけがえのない大切な存在です。芝川っ子のみなさんにも、迷わず人を救う行動をとれる人に育ってほしいと願っています。

10月は、校外学習や自然体験など、外に出て学ぶ機会が多くなる月です。教室を離れ、地域や自然の中で五感を使って学ぶことで、子どもたちの興味や関心が広がり、学びがより深まっています。また、運動会に向けた練習も始まり、仲間と力を合わせて取り組む姿が校庭に広がっています。一人ひとりがそれぞれの秋を満喫し、のびのびと成長していくことを願っています。今月もどうぞよろしくお願いたします。

※芝川小だより11月号(巻頭言)は、運動会後に発行します



芝川小のAEDは保健室にあります